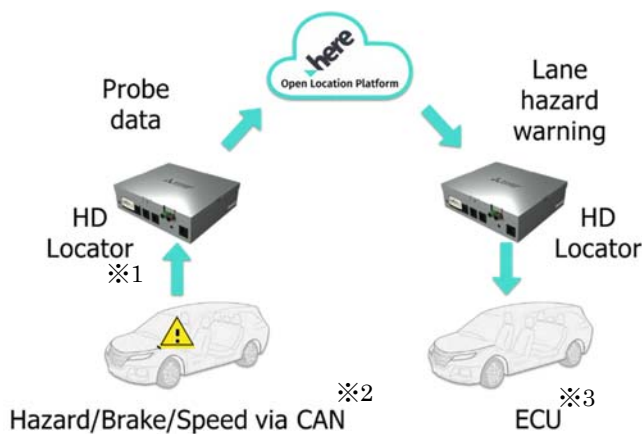


NEWS RELEASE

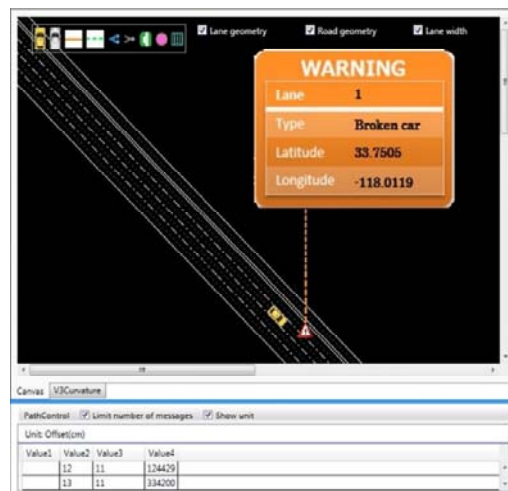
先行車両が検知した路上障害の位置情報をリアルタイムで後続車両へ共有、安全運転に貢献 三菱電機と HERE が「レーンハザードワーニングシステム」を開発

三菱電機株式会社（以下、三菱電機）と HERE Technologies（本社：オランダ・アムステルダム、以下、HERE 社）は、三菱電機の HD ロケーターと HERE 社のクラウドコンピューティング技術を組み合わせることで、道路上のさまざまな危険を事前に警告するシステムを開発しています。

その中で先行車両のセンサーが検知した落下物や陥没、滑りやすい路面などの路上障害の位置情報を、クラウドを通じて後続車両に自動的かつリアルタイムに共有する「レーンハザードワーニングシステム」を開発し、本システムの実証実験を 2018 年 12 月に茨城県で、2019 年 3 月に米国・カリフォルニア州で実施しました。両社は今後、路面劣化状況といった情報もクラウド上で収集することで、より幅広いシステムの開発に取り組んでいきます。



「レーンハザードワーニングシステム」
での情報の流れ



「レーンハザードワーニングシステム」
での警報情報のイメージ

※1：High Definition Locator

※2：Controller Area Network

※3：Electrical Control Unit

「レーンハザードワーニングシステム」の概要

「レーンハザードワーニングシステム」は、車に搭載されたセンサーやブレーキの動作状況をもとに把握した、故障車や減速走行の車両、落下物、陥没、滑りやすい路面などの路上障害の情報について極めて正確な位置情報とともに、障害に接近している後続車両にクラウド経由でリアルタイムに共有します。これにより、後続車両は路上の危険を数秒あるいは数分前に把握でき、危険を回避する時間を得ることができます。

今回開発したシステムは、ドライバーの安全確保や自動運転システムへの応用が期待されることから、両社は本システムを自動車メーカーが自社の車両で試験ができるように、広く提供する予定です。

なお、本システムは、センチメートル単位の精度で自己位置を特定できる三菱電機の HD ロケーターと HERE 社の大規模位置情報データプラットフォーム「HERE Open Location Platform」を活用しています。

また、両社は、クラウドを活用した自動運转向け高精度地図の自動更新技術や、道路事業者が路面の劣化状況を通知するサービスなども検討しています。

開発に対するコメント

<三菱電機>

路上になんらかの障害が発生した場合、ドライバーがその障害に即座に対応することは困難であり、ドライバーや同乗者は危険にさらされます。当社は **HERE** 社と協力し、道路上にある障害を避けるために、ドライバーが安全に車線変更などの対応ができるように、数秒あるいは数分の猶予を提供する新しいシステムを開発しました。このシステムが将来の交通安全に役立つことを期待しています。

三菱電機株式会社 常務執行役 自動車機器事業本部長 大西 寛

<HERE 社>

当社と三菱電機は、自他の車両からの情報を基にしたシステムを通じて、将来の安全運転に貢献していきます。また、迅速、正確かつ的確に道路上の危険を通知することは、自動運転やスマートシティサービスに不可欠なデータインフラであると考えています。この技術が市場に登場することを楽しみにしています。

HERE Technologies シニアヴァイスプレジデント Jørgen Behrens

報道関係者からのお問い合わせ先

<三菱電機>

三菱電機株式会社 広報部 塚原 雅人

〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 TEL 03-3218-2820 FAX 03-3218-2431

E-Mail : Tsukahara.Masato@dp.MitsubishiElectric.co.jp

<HERE 社>

株式会社井之上パブリックリレーションズ内 **HERE** 広報担当：リットウィン／池田

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-28-4 YKB エンサインビル 12F TEL: 03-5269-2301

E-mail : here@inoue-pr.com